

午 後

問 題

◎指示があるまで開かないください。

老人福祉論

問題 81 認知症高齢者のケアに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のⅡは、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする状態を指す。
- 2 パーソンセンタードケアとは、疾病あるいは症状を対象にしたアプローチではなく、生活する個人を対象とするケアである。
- 3 認知症スクリーニングテストとして用いられている「MMSE」は、20点満点で10点以下であれば、認知症の疑いが強いとされる。
- 4 アルツハイマー型認知症とは脳の動脈硬化を基盤とし、^{こうそく}脳梗塞を繰り返すうちに、段階的に知能が低下し、日常生活に介助を要する状態をいう。
- 5 認知症が軽症の間の見当識については、自分の行き慣れた場所だけではなく、新しい場所の見当識も保たれている。

(注) 「MMSE」とは、Mini-Mental State Examinationのことである。

問題 82 高齢者虐待の防止に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 市町村は、養護者による高齢者虐待の防止や養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護等を適切に実施するために、これらの事務に専門的に従事する職員を確保するよう努めなければならない。
- B 自らが勤務する養介護施設において、その施設の従事者によって虐待を受けた高齢者を発見した従事者は、市町村に通報するよう努めなければならない。
- C 「高齢者虐待防止法」は、虐待防止に関する国等の責務、高齢者の保護、養護者に対する支援等を定めることを目的として、介護保険法とともに制定された。
- D 地域包括支援センターは、虐待の事例を把握した場合には、「高齢者虐待防止法」等に基づき、速やかに当該高齢者を訪問して状況を確認する等、事例に即した適切な対応をとることとされている。

(注) 「高齢者虐待防止法」とは、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 83 高齢者の住宅及び住環境にかかわる施策に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 公営住宅法（昭和26年）では、制定時より社会福祉法人が公営住宅を活用して社会福祉事業を行えるように規定していた。
- B 地域高齢者住宅計画（昭和61年）が示され、その翌年、住宅金融公庫（現住宅金融支援機構）の「バリアフリー対応賃貸住宅融資」の途が開けた。
- C 「高齢者居住法（平成13年）では、民間賃貸住宅市場の整備等も目的とされている。
- D 住宅建設計画法（昭和41年）による第5期住宅建設五箇年計画では、中高年者の使用する室面積や設備の内容に対して一定の居住水準が示されていた。

（注） 「高齢者居住法」とは、「高齢者の居住の安定確保に関する法律」のことである。
（組み合わせ）

- 1 A C
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 84 高齢者の心理的特性や社会的特性に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 プロダクティブ・エイジングとは、心身機能の低下に伴い、社会の第一線から退き、趣味と共に生きる高齢者のあり方を強調するものである。
- 2 タルヴィング（Tulving, E.）によれば、高齢者に特有の長期記憶を個人にまつわる出来事の記憶である意味記憶と、誰もが知っている知識に関する記憶であるエピソード記憶に分けて説明できる。
- 3 ライフコースは、社会的存在としての個人の生涯にわたる加齢過程を重視し、個人がたどる多様な生活過程を明らかにしようとする見方である。
- 4 特定の文化に特徴的な言語や知識に適用される能力である流動性知能は、加齢とともに向上するとされている。
- 5 老年期の人格や特性は、すべての高齢者に特有の傾向があるとされている。

問題 85 市町村老人保健福祉計画（市町村老人福祉計画及び市町村老人保健計画）に関する次の記述のうち，正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 市町村老人保健福祉計画は，市町村介護保険事業計画と調和が保たれたものでなければならない。
- B 市町村老人福祉計画が定めるべき事項には，当該市町村の区域において確保すべき老人福祉事業の量の目標，その確保のための方策などがある。
- C 市町村老人保健計画は，都道府県が定める広域連合ごとに医療等以外の保健事業の供給体制の確保に関する事項を定める。
- D 市町村老人福祉計画に老人福祉センターの整備目標を掲げるに当たっては，市町村は厚生労働大臣が定める標準を参酌することとなっている。

（組み合わせ）

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 86 ケアマネジメントのモニタリングに関する次の記述のうち，正しいものを一つ選びなさい。

- 1 モニタリングの目的は，利用者のケアプランの第一案を作成することである。
- 2 モニタリングは，援助目標を長期のものではなく，短期のものに書き換えるものである。
- 3 モニタリングは，訪問ではなく利用者の来所により行うものである。
- 4 モニタリングは，ケアマネジャーが1人で行うのではなく，必ず2人以上で行うことになっている。
- 5 モニタリングでは，面接だけでなく，記録に残すことも必要となる。

問題 87 削除

(老人福祉論・事例問題)

権利擁護に関する次の事例を読んで、問題88から問題90までについて答えなさい。

〔事例〕

X市に一人で暮らすE女(67歳)は、日常生活上の意思決定にはあまり問題はないが、加齢とともに、初対面の人とは緊張のあまり「頭が真っ白」になって、判断力が極度に落ちるときがある。また、50代初めから股関節に著しい変形を伴う変形性関節症のために日常生活に支障をきたしており、身体障害者手帳も所持している。介護保険サービスは、65歳になってから、訪問介護や訪問看護などを利用している。

心身の障害のためもあってか、E女は以前から食料品や日用品を買い溜める傾向にあったが、3年前の夏に、今は既に亡くなっている父親が入院中、一人で自宅にいた際に布団販売の悪徳業者に勧誘され、2度にわたって150万円ずつ、計300万円をだましとられた。さらに昨年の夏にはその仲間と思われる男が自宅を訪問してきて、「以前にだまされた布団を引き取ってあげる。そのためには会社に31万円の手数料を払わなければならない」といわれて、その場で現金31万円を渡してしまった。300万円については業者の領収書は残されていたが、31万円の方は領収書もなく、どこの誰に持っていかれてしまったのかはまったく不明である。介護保険サービス開始当初より訪問介護を担当してきたG訪問介護員は、昨年の暮れに、E女からその被害について聞かされた(問題88)。

今年の夏になって他県に住むE女の弟・F男は、こうした一連の経緯をE女のG訪問介護員から知らされた。F男は連絡を受けた1週間後にE女の自宅に行き、「頭が真っ白になってしまった」という話をE女から聞いた。そして、G訪問介護員の助言によってE女の地域の地域包括支援センターに出向き、社会福祉士と成年後見制度の適用の可能性について相談した(問題89)。

しかしその後、成年後見を申し立てるためにかかりつけの精神科医の診断をE女が受けたところ、「意思能力のレベルは徐々に落ちてきてはいるが、日常生活が営めないほどではない」という趣旨の診断が出され、F男は成年後見制度の活用については見送らざるをえなくなった(問題90)。

問題 88 この時点で、G訪問介護員が早めに行うことが望ましいと考えられる対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A サービス提供責任者へE女の状況について相談し、対応策について助言を受ける。
- B 悪質商法の被害についてF男へ連絡する。
- C 地域包括支援センターが行う消費者被害の防止についての情報をF男へ提供する。
- D こうした状態で一人暮らしを続けていると、さらに消費者被害の対象となることもありえるので、施設入所を検討する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 89 F男の相談を受けた地域包括支援センターの社会福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A F男が遠く離れた他県に暮らしていて、成年後見人となるのは事実上無理なので、成年後見の申立ては市長がすることになると説明した。
- B 被害金を取り戻すとともに、さらに被害が拡大することのないように、消費者センターにも届け出て相談するよう、F男に促した。
- C E女が被害にあった状況を知っているのはG訪問介護員であるので、E女、F男の話と併せてG訪問介護員からも状況を聞くことにした。
- D 成年後見の申立ては、裁判所で認められるまでには一定の時間がかかるので、その間に再び被害に遭うことのないよう、E女を引き取るべきだとF男を説得した。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問題 90 地域包括支援センターの社会福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A E女が住む地域の町内会役員や民生委員，E女が利用している訪問介護事業所の専門職などで，見守りのチームを作ることにした。
- B E女のこれ以上の消費者被害を防ぐために，法定後見制度を活用することはできないので，自己破産制度を活用するようF男に情報提供をした。
- C 福祉サービス利用援助事業を活用すれば，E女の生活支援も可能であることをF男に伝え，F男と共に市の社会福祉協議会に相談することとした。
- D 地域包括支援センター内にとどまらず，行政や消費者センターと連携して消費者被害の事例や情報を収集し，提供することにした。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

障害者福祉論

問題 91 障害者自立支援法に基づくサービス利用の手続きに関する次の文章の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

障害者自立支援法に基づく介護給付費は、市町村もしくは「指定相談支援事業者等」による「一次判定」と「市町村審査会」の「二次判定」に基づき、市町村が「A」を認定したうえで、「A」その他の事項を勘案して市町村が行う「支援要否決定」を経て支給される。一次判定における調査項目には、介護保険制度で用いられている要介護認定基準と同様の調査項目と、「行動障害及び「B」に関する調査項目」、「その他の精神面等に関する調査項目」が含まれている。なお、介護給付費等に係る処分に不服がある場合は、「C」に審査請求することができる。

- | | A | B | C |
|---|--------|-----------|--------|
| 1 | 要介護度 | 生活関連動作 | 都道府県知事 |
| 2 | 障害程度区分 | 生活関連動作 | 都道府県知事 |
| 3 | 要介護度 | 手段的日常生活動作 | 市町村長 |
| 4 | 障害程度区分 | 生活関連動作 | 市町村長 |
| 5 | 障害程度区分 | 手段的日常生活動作 | 都道府県知事 |

問題 92 障害者に対する割引・減免制度に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 療育手帳の交付を受けている者は、JR旅客運賃割引制度の対象である。
- B 所得税法上扶養親族が障害者の場合、所得税の障害者控除が受けられる。
- C 点字のみを掲げたものを内容とする郵便物（3kg以下）は、無料で送ることができる。
- D 精神障害者が世帯主の場合は、NHK放送受信料の半額が免除される。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 93 精神障害者の施策に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 精神科病院入院患者の地域移行を実現するため、精神保健福祉士等による支援計画の策定や相談・助言、関係機関等の連絡・調整などを行う精神障害者退院促進支援事業は、障害者自立支援法の市町村地域生活支援事業の中に位置づけられている。
- B 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律における精神障害者通院医療費公費負担制度は、障害者自立支援法の自立支援医療における精神通院医療として位置づけられた。
- C これまで多面的に地域生活を支えてきた精神障害者地域生活支援センターは、障害者自立支援法の施設体系においてデイサービスセンターとして位置づけられた。
- D 平成17年の障害者の雇用の促進等に関する法律の改正によって、精神障害者保健福祉手帳を所持している精神障害者については、障害者雇用率に算定することができるようになった。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | × | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | ○ | × | × |

問題 94 ノーマライゼーションに関する次の文章の空欄A、B、Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

障害者を「A」するのではなく、「B」の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、「C」社会こそノーマルな社会であるとの考え方。（「障害者基本計画」（平成14年）のノーマライゼーションの用語説明による）

- | | A | B | C |
|---|-----|---------|-------|
| 1 | 特別視 | 一般社会 | 共に生きる |
| 2 | 差別 | あたたかな環境 | 平等な |
| 3 | 差別 | 一般社会 | 平等な |
| 4 | 差別 | 一般社会 | 共に生きる |
| 5 | 特別視 | あたたかな環境 | 平等な |

問題 95 障害基礎年金に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 障害基礎年金の障害等級には、1，2，3級がある。
- 2 障害基礎年金は、障害厚生年金とは併給できない。
- 3 障害基礎年金は、特別障害給付金とは併給できない。
- 4 障害基礎年金と老齢厚生年金は併給できない。
- 5 障害基礎年金は、20歳に達した障害者の障害認定日が20歳前の場合には支給されない。

問題 96 「障害者雇用促進法」に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 民間企業の法定雇用率は1.8%であり、厚生労働大臣への障害者の雇用状況についての報告義務は、常用労働者100人以上の企業から適用される。
- B 国及び地方公共団体、特殊法人の法定雇用率は、原則として、2.1%である。
- C 平成18年の民間企業全体の実雇用率は1.52%であり、平成17年の実雇用率に比べて若干増加している。
- D 障害者雇用納付金制度では、雇用率未達成企業（常用労働者301人以上）から納付金を徴収し、雇用率達成企業に対して調整金、報奨金を支給している。

(注) 「障害者雇用促進法」とは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」のことである。
(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | × |

問題 97 「リハビリテーション (Rehabilitation)」という用語に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 語源は、re- (再び) と habilis- (適した) であり「再び適したものになること」を意味する。
- B 中世には、領主や教会により破門された者が許されて復権することを意味した。
- C 第二次世界大戦後の傷痍軍人対策として、障害者のリハビリテーションの取組が始まった。
- D 犯罪者の社会復帰の意味としても用いられる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

(障害者福祉論・事例問題)

盲ろう者支援に関する次の事例を読んで、問題98から問題100までについて答えなさい。

〔事例〕

Gさん（女性，28歳）は，1歳2か月の時，両側性感音難聴と診断され，身体障害者手帳の交付を受けた。1歳6か月の時から補聴器を使用しており，小・中学校は地元の普通学校に在籍した。中学2年の時に，夜盲に気づき，眼科を受診したところ，網膜色素変性症と診断された。視覚障害が徐々に進行したため，地元の聾学校高等部（当時）2年生のときに視覚障害の障害認定を受けた。卒業後，一般企業の経理を担当していたが，視力が更に低下し，経理伝票など，業務に必要な文書を長時間読むことが困難になったため，10年間勤務した後，先月退職し，自宅で家事手伝いをしている。Gさんは，今後の生活設計について相談するために福祉事務所を訪れた。

障害の状況は，聴力（右115デシベル，左115デシベル），視力（右0.1，左0.1），中心視野10度以内で，身体障害者手帳の障害程度等級は1級である。コミュニケーションについては，表出は発語が中心であり，情報獲得は，口話（読話）と手話を併用している。手話は，聾学校高等部にいるときに友人から学んだ（問題98）。

家族は，父，母，本人の3人で，父は65歳で，仕事はしていない。経済的には，父の老齢基礎年金と本人の障害基礎年金（1級）が家計収入であり，なんとか暮らしている状態である。都内に居住しており，近隣にスーパーマーケットや商店街，病院やボランティア・センターなどがある（問題99）。

福祉事務所で相談した結果，Gさんは，地域で両親と生活したいと考えたが，盲ろう重複障害による様々な問題があり，地域で暮らしていけるか自信がない（問題100）。

問題 98 福祉事務所の担当職員が、Gさんとのコミュニケーションをとる際の留意点についての次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 視力低下があるので、手話で話しかけるときには、できるだけ大きな動作にする。
- B よく聞こえるように補聴器の近くでなるべく大きな声で話す。
- C 話しかけるときは、口の動きが分かるように正面から話す。
- D 確実に伝えるために、なるべく手のひらに指で文字を書くようにする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 99 Gさんに対する福祉事務所の当面の支援に関して、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 家計収入が不足しているので、本人の障害厚生年金を受給するための手続きをするために社会保険事務所に行くよう助言する。
- B 視力を回復させることが一番大切であるので、角膜移植などの手術をするように病院の受診を助言する。
- C Gさんが、調理や家事などの日常生活を問題なくできているかどうかを確認するために、それに対応できるリハビリテーションセンターに相談するよう助言する。
- D Gさんが、安心して外出できるように盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業を行っている障害者団体を紹介する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問題 100 Gさんに対する今後の支援に関して、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 今後さらに視覚障害が進行することも考えられることから、心理的なサポートが必要である。
- B スーパーマーケットや病院など地域の生活施設の安全な利用のために行動援護サービスを積極的に利用することが好ましい。
- C コミュニケーションや移動の安全のために社会適応訓練を受けることが好ましい。
- D 悪徳商法などの被害に遭わないように福祉サービス利用援助事業を活用することが必要である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	○	×	×

児童福祉論

問題 101 ある県が設置している児童相談所に、児童福祉司を任用しようとする際の任用基準に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。なお、候補者は、すべて県知事の補助機関である県の職員であるとする。

- 1 保育士であれば、児童福祉司として任用することができる。
- 2 社会福祉士であれば、児童福祉司として任用することができる。
- 3 社会福祉主事であり、かつ、2年以上社会福祉事業に従事した者であれば、児童福祉司として任用することができる。
- 4 保健師であり、かつ、2年以上社会福祉事業に従事した者であれば、児童福祉司として任用することができる。
- 5 教員免許状を有する者であり、かつ、2年以上社会福祉事業に従事した者であれば、児童福祉司として任用することができる。

問題 102 相談及び支援に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 配偶者のない女子で現に児童を扶養しているものに対し、職業能力の向上及び求職活動に関する支援を行うことは、母子自立支援員の業務の一つである。
- 2 児童及び妊産婦の福祉に関し、家庭その他からの相談に応じることは、市町村の業務の一つである。
- 3 児童養護施設を退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことは、当該施設の目的の一つである。
- 4 児童家庭支援センターは、児童相談所に附置できる児童福祉施設の一つである。
- 5 要保護児童等に対する支援の内容に関する協議を行うことは、要保護児童対策地域協議会が行う活動の一つである。

問題 103 母子保健法に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 「妊産婦」とは、妊娠中又は出産後1年以内の女子をいう。
- 2 「乳児」とは、1歳に満たない者のうち、「新生児」を除いた者のことをいう。
- 3 「幼児」とは、満1歳から満4歳に達するまでの者をいう。
- 4 「新生児」とは、出生後56日を経過しない者をいう。
- 5 「未熟児」とは、身体の発育が未熟のまま出生した乳児であって、出生後6か月を経過しない者をいう。

問題 104 次の記述のうち、市町村の業務でないものを一つ選びなさい。

- 1 主任児童委員の指名
- 2 子育て支援事業に関する必要な情報の提供
- 3 障害児に対する日常生活上の便宜を図るための用具の給付
- 4 満3歳を超え満4歳に達しない幼児に対する健康診査の実施
- 5 放課後児童健全育成事業の利用の促進

問題 105 児童扶養手当に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 精神又は身体に障害を有する児童の福祉の増進を図るために支給される。
- 2 手当の支給に要する費用は、支給事務に要する経費の一部を除いて、すべて国が負担する。
- 3 父母が婚姻を解消したことを理由とする場合は、支給されない。
- 4 手当の支給は、婚姻を解消した父等が児童に対して履行すべき扶養義務の程度又は内容を変更するものではない。
- 5 児童を扶養する保護者に現金で支給するだけでなく、児童育成事業を促進するために支出される場合がある。

問題 106 次の文章の空欄Aに該当する記述として、適切なものを一つ選びなさい。

児童虐待を防止することは、子育ての支援体制の充実という少子化対策の面からも重要な意味を持っております。そういうふうに認識をいたしておりますし、そして、児童が再び児童虐待を受けないようにするためにその保護者の指導が重要であることも御指摘のとおりであります。

そこで、本法律案（児童福祉法の一部を改正する法律案（平成16年2月10日閣議決定））におきましては、家庭裁判所が児童を乳児院などの施設に入所させる措置を承認する際に「A」が設けられております。

- 1 保護者への指導措置を採るよう、市町村に勧告することができる制度
- 2 保護者への指導措置を採るよう、都道府県などに勧告することができる制度
- 3 都道府県が採る指導措置に従うよう、保護者に命令することができる制度
- 4 適切な指導を受けるよう、保護者に勧告することができる制度
- 5 家庭裁判所による指導を受けるよう、保護者に命令することができる制度

（注）平成16年11月12日の参議院本会議の会議録の一部を変更している。

問題 107 次世代育成支援対策推進法に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 国及び地方公共団体以外のすべての事業主（一般事業主）は、必ず一般事業主行動計画を策定するものとされている。
- 2 国及び地方公共団体以外の事業主（一般事業主）は、都道府県知事の定める行動計画策定指針に即して、行動計画を策定するものとされている。
- 3 市町村は、5年を一期として市町村行動計画を策定するものとされている。
- 4 都道府県知事は、国及び地方公共団体以外の事業主（一般事業主）の団体のうちから、次世代育成支援対策推進センターを指定することができるかとされている。
- 5 母性並びに乳児及び幼児の健康の確保及び増進に関しては、母子保健計画に含まれる内容であるため、市町村行動計画の中には含まないものとされている。

(児童福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題108から問題110までについて答えなさい。

〔事例〕

H子(4歳)の両親は、H子が2歳の誕生日を迎えた頃に離婚し、H子は実母に引き取られた。実母は精神疾患を抱えており、生活保護を受給している。離婚後間もなく、実母はH子に対し、殴る、蹴るなどの暴力を振るうようになった。H子が2歳半の時、実母の罵声とH子の悲鳴が気になった近所の人が児童相談所に通告、児童相談所は実母の同意のもとに直ちにH子を児童養護施設に入所させた。実母はH子への愛情は乏しく、面会にもまったく来ない。

児童相談所としては、H子の施設入所生活が長引くことが想定されたため、家庭的な雰囲気^なの安定的な養育環境が必要と判断し、里親委託を決定した。委託に先立ち、里親のJ夫妻は児童養護施設にいるH子との面会を重ねた。その結果、H子がJ夫妻によく懐くようになったため、4歳の誕生日を機に委託に至ったものである。

委託に際して、J夫妻は児童相談所の担当児童福祉司Kに、H子の実母がH子との面会を突然、直接J夫妻に求めてきた場合の対応について相談した(問題108)。

委託当初は、H子は素直で、特に里親を困らせる言動も見られなかったが、2か月が経過した頃から、夜尿が激しくなるとともに、嘘をつく、口答えをするなどの行動が見られるようになった。そこで、J夫妻は児童福祉司Kに相談した(問題109)。

その際の児童福祉司Kの対応は適切であったが、その後、H子の問題行動はひどくなる一方であった。里父は「叱るべき時には、きちんと叱らねば」と考え、厳しく叱るようにしたところ、H子は里父を怖がって避けるようになり、逆に里母から離れなくなってしまった。やがて里父は、「お前がH子を甘やかすからだ」と里母を責めるようになるなど、今では夫婦の関係もぎくしゃくしたものとなってしまった。そこで、児童相談所では、H子やJ夫妻への今後の援助方針について会議が開かれたが、そこでは様々な意見が出された(問題110)。

問題 108 このときの児童福祉司KのJ夫妻への発言について、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 直ちにH子に会わせてあげてください。
- 2 H子に会わせることは避け、まず、児童相談所に相談するよう実母に伝えてください。
- 3 現在、H子を養育しているのはJ夫妻なのだから、会わせるかどうかはJ夫妻で決めてください。
- 4 H子の気持ちがいちばん大切ですから、H子の意向に従ってください。
- 5 実母は多分現れないと思うし、万一面会を希望してきたら、その時はその時で対応を一緒に考えましょう。

問題 109 このときの児童福祉司KのJ夫妻への発言について、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 H子の年齢は反抗期であり、実子でもこの程度のことはありがちです。J夫妻も頑張っているのですから、心配しないでください。
- 2 H子の状況は、病気の可能性があると考えられます。このため、至急、専門病院で診てもらおうように手配する必要があります。
- 3 H子は愛情を求めているのですから、H子の希望どおりに、愛情をかけてやってください。里親としては、厳しく叱ってはいけません。
- 4 いずれ必ず落ち着くので、その時を信じて気長に見守ってあげてください。今は、何も考えずに、今までどおりのかかわりを継続してください。
- 5 H子が甘えを表現できるようになったのですね。でも、J夫妻としてはつらいところですね。児童相談所と一緒に考えていきましょう。

問題 110 このときの会議で出された次の意見のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 J夫妻に里親委託をしたのであるから、H子の養育については、J夫妻による自己決定を尊重しなくてはいけない。このため、児童相談所としては静観すべきである。
- 2 H子に対するJ夫妻の養育態度を見ると、里親としての養育能力に欠けると思われる。このため、J夫妻以外の他の里親への委託を検討すべきである。
- 3 H子の心理状態を見極めながら、H子への心理的ケアのあり方について検討すべきである。また、J夫妻に対して、H子の心の動きについて説明する必要がある。
- 4 里父の厳しい叱責がH子の問題行動の一つの要因として考えられる。このため、叱責は避け、H子を甘やかすよう助言すべきである。
- 5 H子の問題行動は、どんな里親であっても手に余ると考えられる。このため、里親に委託することは困難であり、H子を児童養護施設に戻すべきである。

社会福祉援助技術

問題 111 ソーシャルワークにおける「人」と「環境」をめぐる学説に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 ジャーメイン (Germain, C.) らは、生態学の視点を用いて、個人に焦点を当てつつ、個人の適応についての説明をしようとした。
- 2 ハミルトン (Hamilton, G.) は、社会生活機能という概念を用いて、社会環境からの要求と人の対処努力との間の交換・均衡に焦点を合わせることを提唱した。
- 3 バートレット (Bartlett, H.) は、状況の中の人間という概念を用いて、ケースワークにおける診断についての特徴を明らかにしようとした。
- 4 リッチモンド (Richmond, M.) は、人と社会環境との間を個別に意識的に調整することを通して、パーソナリティを発達させる過程について論じた。
- 5 ソロモン (Solomon, B.) は、人を環境との相互関連の中でとらえようとし、人は状況により変化するという考え方をソーシャルワークに導入した。

問題 112 日本社会福祉士会の倫理綱領（2005年採択）に関する次の記述の空欄A、B、Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

われわれ社会福祉士は、すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを深く認識する。われわれは平和を擁護し、「A」と「B」の原理に則り、サービス利用者本位の質の高い福祉サービスの開発と提供に努めることによって、社会福祉の推進とサービス利用者の「C」をめざす専門職であることを言明する。（前文より）

A B C

- 1 民主主義――権利擁護――自己実現
- 2 民主主義――権利擁護――支援
- 3 民主主義――社会正義――支援
- 4 人権――社会正義――支援
- 5 人権――社会正義――自己実現

問題 113 アドボカシーに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A アドボカシーを行うソーシャルワーカーは、サービス提供機関などの方針とクライアントの意向が対立する場合、クライアントの立場を優先的に考える。
- B アドボカシーを行うソーシャルワーカーは、専門的知識と技術を用いて、クライアントを支持し、クライアントの最善の利益に向けて行動する。
- C ケース・アドボカシーとは、ソーシャルワーカーが特定のニーズを持つ集団の権利を擁護していくことである。
- D コーズ・アドボカシーとは、クライアントがソーシャルワーカーの支援を受け、ニーズ充足を求めて行動し、自らの権利を擁護していくことである。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 114 ソーシャルアクションに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A ソーシャルアクションには、ソーシャルワーカーが主に教育者や管理者としての役割を果たすことが含まれる。
- B ソーシャルアクションには、地域住民などのニーズ充足のために、制度やサービスの改善などを目指して行う組織的な活動が含まれる。
- C ソーシャルアクションには、世論の喚起や集会・署名・請願・陳情などによる議会や行政機関への要求行動が含まれる。
- D ソーシャルアクションには、政策形成・政策決定、資源の調達・配分についての計画が含まれる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 115 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A スーパービジョンでは、上司が部下の課題解決などを支援していくことがある。
- B スーパービジョンでは、上司が部下に適切な知識や技術を習得させるようにすることがある。
- C コンサルテーションでは、ソーシャルワーカーが他の専門職の相談に応じ、助言することがある。
- D コンサルテーションでは、ソーシャルワーカー同士で業務遂行の適切性を相互に管理・監督することがある。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 116 次の記述の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

標本調査とは、調査対象となる集団の一部を抽出し、「A」の特性を推測する方法である。集団の一部を抽出する方法には、確率理論に基づく「B」と、確率理論に基づかない有意抽出法がある。「B」には、一定の間隔で標本を抽出する「C」という方法がある。

- | | A | B | C | | |
|---|-----|---|--------|---|---------|
| 1 | 標本 | — | 無作為抽出法 | — | スノーボール法 |
| 2 | 標本 | — | 無作為抽出法 | — | 系統抽出法 |
| 3 | 標本 | — | 割当抽出法 | — | スノーボール法 |
| 4 | 母集団 | — | 割当抽出法 | — | スノーボール法 |
| 5 | 母集団 | — | 無作為抽出法 | — | 系統抽出法 |

問題 117 障害者福祉施設におけるソーシャルワーカーの就労支援に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 障害者就労支援チームのメンバーとして、インシデント・プロセス法を用いて、就労支援の開始期における利用者のケアプランを作成する。
- 2 利用者に対して、利用者本人に合った就労支援セミナーや職場見学会等への参加を促す。
- 3 あらゆる利用者を就労支援の対象者とし、一般雇用を目標として就労の促進を図る。
- 4 就労支援のための相談援助は直接行わず、利用者に地域障害者職業センターを紹介する。
- 5 障害者就労支援チームのメンバーとして、ケアプラン作成のためのケア会議に出席し、利用者本人及び必要に応じてその家族等に参加を促す。

問題 118 ソーシャルワーカーが行う連携に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 連携には、ワーカーと地域住民などとの間で行われるものがある。
- B 連携を行うための会議では、合理的な運営のために特定の職種がリーダーを務める。
- C 連携を行うための会議では、個人情報管理について十分な配慮を行う。
- D 連携は、ソーシャルワークにおける援助過程のインテークの段階で主に行われる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 119 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 家族システムアプローチでは、問題をめぐるシステムに働き掛けることで解決に向かうという前提に立ち、最も身近なシステムとしての家族に働き掛けを行う。
- B 心理社会アプローチでは、生活モデルに基づき、個人に生じる特定の問題行動に働き掛け、その問題行動の変容を行う。
- C 危機介入アプローチでは、災害や急病といった突発的な出来事ばかりでなく、ライフサイクル上の課題等によるストレスも視野に入れて介入を行う。
- D 生態学的アプローチでは、学習理論に基づき、個人のニーズ充足のために生活環境の改善を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 120 社会福祉援助活動の展開に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 インテークでは、クライアントとその環境全般にわたって様々な情報を収集し、クライアントの生活全体をとらえる。
- 2 アセスメントでは、クライアントのニーズと援助目標との適合性や援助展開などを確認し、目標達成に向けて援助を展開する。
- 3 プランニングでは、クライアントの解決困難な課題から取り組み、その援助に向けての目標設定や援助実施の見守りを行う。
- 4 インターベンションでは、クライアントやその環境及びその両者への介入を行い、状況に応じて社会資源の開発などを行う。
- 5 エバリュエーションでは、クライアントのニーズと援助機関の機能やサービス内容との適合性の判断を行う。

問題 121 ケアマネジメントの過程に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 ケアマネジメントの効果や利用者の満足度などを査定し判断することを「スクリーニング」という。
- 2 実施されたサービスがケアプランどおりに行われているか、サービスが利用者の変化に対応できるかなど、その状況を見守ることを「アセスメント」という。
- 3 利用者のニーズ、問題、自己ケア能力など、利用者を取り巻く状況を多面的、包括的にとらえることを「ケアプランの作成」という。
- 4 利用者と合意を得た後、実行可能な援助サービスを提供することを「ケアプランの実施」という。
- 5 ケアマネジメント実施後に、利用者・家族の意向などを反映させ、ニーズの優先順位づけを行うことを「モニタリング」という。

問題 122 住民による高齢者見守りネットワークに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 地域ネットワークの構築には、社会資源やニーズの把握、住民への啓発活動、虐待防止ネットワークづくりなどが含まれる。
- B 地域住民が早期発見や見守りのネットワークにかかわることで、住民の地域への関心を高めることができるといわれている。
- C 高齢者の虐待防止のためのネットワークとは、介護保険サービス事業者、行政機関、医療機関の3者で組まれたネットワークである。
- D ネットワークのための社会資源マップは、行政が提供する資料に基づいて作成される。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × | ○ |

(社会福祉援助技術・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 1 2 3 から問題 1 2 5 までについて答えなさい。

〔事 例〕

この児童養護施設では、入所している中学 3 年生を対象に、「卒業後の進路について」というテーマで毎年グループワークを実施している（問題 1 2 3）。今年度は、4 月から 5 月にかけて、週 1 回のペースで 6 回開催している。メンバーは中学 3 年生の入所児童 6 名（男子 2 名、女子 4 名）で実施し、グループワーカー（以下、「ワーカー」という。）は児童指導員が担当している。

次の場面は、2 回目のグループワーク場面でのやりとりである。

ワーカー：卒業後の進路について、みんなはどう考えているの？それぞれ聞かせてくれるかな。

L さん：私は、とりあえず普通科の高校に行きたいとは思ってる……。

M 君：僕は、高校でも野球を続けたいので、野球部がある高校に行きたいよ。

N さん：みんな高校に行きたいのね。私もなんとなくそう思ってるけど……。

ワーカー：P 君はどうか。

P 君：僕も絶対高校に行きたい。勉強はあんまり好きじゃないけど。

M 君：今の P 君の成績じゃ無理だよ。どこにも行けないよ。あきらめた方がいいよ。

ワーカー：（問題 1 2 4）

……（中略）……

ワーカー：それぞれ少しずつ思いは違っても、6 人とも高校に進学したいということだったよね。みんなの考えを聞いてみての感想とか、どうか。

N さん：私、ちょっと焦っちゃった。そろそろちゃんと考えなきゃいけない時期なんだなって。

ワーカー：そうだね。今日はもう時間なんだけど、次回は進路のことについて、みんなと、もう少し深く考える機会にできたらいいね（問題 1 2 5）。

問題 123 このグループワークにおいて、ワーカーが設定している目標に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 全メンバーに高校進学を目指す雰囲気を作ることができる。
- B 各メンバーが自分の進路について洞察するきっかけとなる。
- C グループワーク終了後もメンバー間で相互に相談できるようになる。
- D 各メンバーが自分の目標に向けて具体的に取り組めるようになる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 124 この場面でのワーカーの発言に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 確かに、現実を直視するのは大事だね。今のP君の成績では厳しいよなあ。
- 2 M君だって人のことを言える成績じゃないだろ。そんなこと言っちゃだめだよ。
- 3 M君がそう言いたくなる気持ち、とてもよく分かるよ。
- 4 P君は、自分の成績のことをどう思ってるの？
- 5 希望を大切にしたいので、P君の今の気持ちをみんな大切にしようよ。

問題 125 次回以降のワーカーの働き掛けに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 学習意欲を高めるために、模擬試験の成績一覧を各メンバーに示す。
- B 高校に通学している先輩をゲストに招き、高校生活の実際についての話を聞く。
- C 各メンバーの成績や家庭環境を考慮して、受験すべきそれぞれの高校を早めに指示する。
- D 進学に向けて、どのような準備をする必要があるのかを全メンバーで話し合う。

(組み合わせ)

1	A	B
2	A	C
3	A	D
4	B	D
5	C	D

(社会福祉援助技術・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 1 2 6 から問題 1 2 8 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Qさん(43歳, 男性)は, 妻(40歳)と娘(12歳)の3人暮らしである。Qさんは, 病院で診察を受け, 血液検査を受けたところ, ヒト免疫不全ウイルス(以下, 「H I V」という。)に感染していることが分かった。数週間後, 主治医から病気の説明を受けたQさんは, 家族に病名を伝えない形での短期検査入院となった。Qさんは, 主治医が回診に来ても布団を被って丸くなっている状態であった。それを見た主治医は, Qさんのことが心配になり, 医療福祉相談室があることをQさんに伝え, ソーシャルワーカー(以下, 「ワーカー」という。)のことを紹介した。

主治医は, 電話でワーカーにQさんと至急面接して欲しいとの依頼をした。そこで, ワーカーは, なるべく早くQさんと面接を行うことにした(問題 1 2 6)。

Qさんとの初回面接の日程調整後, ワーカーは, Qさんが安心できるような配慮のもとに, 初回面接に臨んだ(問題 1 2 7)。

張り詰めた表情のQさんが突然顔を上げ, 「私はもうすぐ死ぬのでしょうか」と強い口調で尋ねてきた。ワーカーが, 「先生からどのような説明を受けましたか」と尋ねると, Qさんは, 「H I Vに感染していると聞いた途端, 気が動転してしまい, 先生が何を説明されていたのかよく覚えていません」と答えた。さらに面接を進める中で, Qさんが, この病気を抱えてこれからどうなるのか, 家族にはどのように説明すればよいのか, 仕事は辞めなければならないのか, 高額になると思われる医療費はどうしたらよいのかなど, 立て続けに質問してきたことから, 非常に混乱していることが明らかになった。これらの課題について, ワーカーは一緒に考えていくことを約束した。近日中にもう一度面接することを提案し, Qさんから同意を得ることができた。面接を終えたワーカーは, 今日の面接結果を基に次回以降の面接の準備をした(問題 1 2 8)。

問題 126 この時点で行うワーカーの準備に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A HIVに関する疾病の知識と予後について十分に理解をしておく。
- B 事前に家族と連絡を取り、インフォームド・コンセントに備える。
- C Qさんのプライバシーが確保できる面接室を準備する。
- D これまでのQさんの状況や様子についての情報を主治医から得る。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 127 初回面接においてQさんを安心させる配慮として行うワーカーの行動に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 話される内容などについての秘密を守ることをしっかりとQさんに伝える。
- B Qさんが面接室に来てくれたことをねぎらう。
- C 福祉事務所や他の医療機関と連携して課題解決できることをQさんに示す。
- D 治療方法の選択肢とその効果についてQさんに説明する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 128 ワーカーが採るべき今後の援助の方向性に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Qさんの状況を危機的であると判断し、主治医にチームでのサポート体制づくりを提案する。
- B Qさんの状況から、今後の医療費の相談などで家族との面接が必要であると判断し、そのための面接準備を進める。
- C 得られた情報から課題分析を行い、活用できそうな制度や社会資源を調べ、次回の面接に備える。
- D 病気と今後の治療方針について理解が得られるように、主治医に再度の説明を求めるようQさんに提案する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

(社会福祉援助技術・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 1 2 9 から問題 1 3 1 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Z福祉事務所のソーシャルワーカー（以下、「ワーカー」という。）は、大学を卒業して 3 年目の女性ワーカーである。ある日、婦人相談所に保護を求めた R さん（26 歳）と一人息子（3 歳）の支援を行うことになった。R さんは度重なる夫からの暴力を逃れ、身を隠すようにして、1 か月ほど前から婦人相談所で一時保護を受けており、これからの生活を立て直すために、母子生活支援施設への入所を勧められ、インテーク面接のため Z 福祉事務所に来所することになった（問題 1 2 9）。

ワーカーは、R さんに簡単な自己紹介をした上で、今のようなことに困難を感じ、これからどのような生活をしていきたいと考えているかについて尋ねた。すると、R さんは、「今は何も考えることができない……。ただ、婦人相談所の一時保護所にはいつまでもいられないから、他に行くところを探さなければならない……。特に、今の自分には目的や希望があるわけではないし……。婦人相談所から紹介された母子生活支援施設への入所にも決心がつかなくて……。」と憔悴した表情で話した（問題 1 3 0）。

その後、ワーカーは、R さんの気持ちを尊重し、話すことのできる範囲内で、婦人相談所に保護を求めた状況、夫との結婚のいきさつ、子どもに対する想い、自分の生い立ちなどを語ってもらい、当面の生活についての希望を確認した。面接中、婦人相談所に保護される直前には、夫の暴力が R さんだけでなく息子にも加えられ始めたこと、R さんが小学生の頃、父親から暴力を受けていたこと、また、夫と結婚する前に交際していた男性からも暴力を受けた経験があり、その暴力から逃れるために、その頃とても優しい男性に思えた夫との結婚を決心したことなどが語られた。そして、インテーク面接の終わりに、R さんは、「男性から暴力を受けることが、私の人生なのかも知れない……。」とポツリと話した（問題 1 3 1）。

問題 129 この場面においてワーカーが面接前に行う準備に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 婦人相談所から紹介されてきたいきさつなどを確認し、Rさんが置かれている状況に関しての課題整理を行う。
- B 夫からの強引な訪問や連絡に備えて、母子生活支援施設への入所の手はずをあらかじめ進めておく。
- C 婦人相談所以外に、Rさん親子に支援の可能性のある機関とも連絡が取れるよう手はずを整えておく。
- D Rさんの不安感を想定し、不安が和らぐような配慮を考え、面接室の準備を行う。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 130 この場面における、ワーカーの応答に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 「一時保護所のことがお分かりになったのですね」と一時保護の現実を直視させ、評価する。
- B 「まだ、入所の決心がついていませんね」と尋ね、入所についての決心を急ぐように促す。
- C 「ここまで大変だったと思います」とRさんの気持ちを受け止め、現時点での情報の共有化を図る。
- D 「Rさんのペースでこれからのことを一緒に考えていきましょう」と応答する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 131 この場面でワーカーが行う対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Rさんのこれからの生活の立て直しのために、生活技能訓練のグループを紹介し、参加を勧める。
- B Rさんが男性から暴力や虐待を受けてきたことについての洞察を深める援助を行い、精神科の受診を勧める。
- C Rさんに母子生活支援施設への入所の必要性を説得し、婦人相談所にはRさんに代わって入所の意向を伝える。
- D Rさんのこれまでの人生のつらさを共感し、ワーカーがともに考えていくことを確認しあう。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	○	×	×	×
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

(社会福祉援助技術・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 1 3 2 から問題 1 3 4 までについて答えなさい。

〔事 例〕

児童相談所に勤めて 3 か月の新人であるソーシャルワーカー（以下、「ワーカー」という。）は、今回、先輩スーパーバイザーの同席のもとで面接を行うことになった。入室してきた S さん（28 歳）は、5 年前に結婚した専業主婦であり、IT 企業に勤務している夫（30 歳）と娘（4 歳）の 3 人家族である。ワーカーとスーパーバイザーは、S さんに自己紹介を行い 1 時間の約束で面接を開始した。

ワーカー：どのようなご相談でいらしたのですか。

S さん：実は娘のしつけに悩んでいるのです。娘が言うことを聞かないので。

ワーカー：娘さんは、どのように言うことを聞かないのですか。

S さん：目を離したすきにライターを持ち出すなど、勝手に家の中の危険なものに触るんです。またスーパーに行くとき知らないうちにお菓子をポケットに入れて持ち帰ったりします。何度言い聞かせてもやめないで、つかつかとなって手を上げてしまって……。このところ、何度もなんです（涙ぐんで）。

ワーカー：（問題 1 3 2）

その後、ワーカーは、夫が仕事で忙しく S さんだけに育児が任されていることを聞き、さらに問題状況を把握するための面接を進めていった（問題 1 3 3）。

面接も終わり近くなって、急に S さんはワーカーに向かって「私のしつけは、間違っていますか。教えてください」と言った。ワーカーは、「私は、親に殴られたことがないのでよく分かりませんが、4 歳といえば、いろいろなことに興味がある時期でしょう。力任せにしつけをするというより、辛抱強く言い聞かせることの方が大切なのではないでしょうか」と応え、次回の日程を調整して初回面接を終了した。

初回面接終了後、スーパーバイザーは、ワーカーに面接の労をねぎらいつつスーパービジョンを行った（問題 1 3 4）。

問題 132 この場面でのワーカーの応答に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 手を上げてしまったことを悔やんでおられるのですね。
- B 娘さんのことでずいぶん苦しんでおられるようですね。
- C そんなに気にしなくても大丈夫ですよ。
- D 娘さんは、お母さんの気をひきたいだけですよ。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 133 この場面でワーカーがアセスメントすべき内容に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Sさんの育児に対するストレスの状況
- B Sさんの夫の収入
- C しつけに対する夫婦の考え方とSさんの受け止め方
- D Sさん母子の日常生活の様子

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | × |

問題 134 この場面でのスーパーバイザーの発言に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 親に殴られたことがないといって、自己開示できたのはよかったですね。
- B Sさんのしつけについての考え方や大変さをもう少し聞いてもよかったかもしれませんね。
- C 振り返ってみて、Sさんのことを受け止めることができたと思いますか。
- D Sさんの主訴がどのようなことだったのかをもう一度確認してみましょう。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	○	×	×

(社会福祉援助技術・事例問題 5)

次の事例を読んで、問題 135 から問題 137 までについて答えなさい。

〔事例〕

NPO 法人が運営している知的障害者の作業所に勤務するソーシャルワーカー（以下、「ワーカー」という。）は、利用者の収入を上げるために、かねてより社員として雇用してくれる企業を探していた。このたび障害者雇用に積極的な Y 食品会社と交渉したところ、利用者のうち 2 名をパンの製造部門の社員として採用してもよいとのことであった（問題 135）。

作業所の利用者の一人に T さん（35 歳，男性）がいる。T さんは，グループホームで仲間 5 名とともに世話人の支援を受けて生活している。週 5 日は作業所でパンとクッキー作りをしている。月当たりの工賃は約 2 万円である。ワーカーは Y 食品会社の社員の候補として T さんが適任ではないかと考え，T さんと面接した。T さんは「普通の会社でも働いてみたい。でも，今の仲間とできれば一緒に仕事をしたいし，別の場所に通うことに不安がある」と語った（問題 136）。

・・・(中略)・・・

T さんは Y 食品会社の工場に通い始めた。作業所の仕事仲間だった U さんとは，昼食を並んでとり，一緒にバスで通勤している。仕事には徐々に慣れて，担当の作業がうまくできるようになった。ただ，職場の人達にはなかなかなじむことができず，話しかけられても返事をしないことが多い。働き始めて 4 か月ほど経ったあるとき，T さんはパンの焼き時間を間違え不良品を出してしまった。上司にひどく叱られ，ふさぎ込み，その後数日間無断で欠勤した。Y 食品会社の人事担当者はワーカーに電話をし，「T さんは，U さんとも一緒にいることがなくなり，仕事でも注意散漫なことが多いですね。最近何日かは無断で欠勤しています。これからうちでやっていけるのかが心配です」と言った。ワーカーが T さんに連絡を取ったところ，「もう少し頑張りたい」とのことであった（問題 137）。

問題 135 このようなワーカーの活動に対応する次の語句のうち，適切なものを一つ選びなさい。

- 1 モニタリング
- 2ブレインストーミング
- 3 インテーク
- 4 ケアプランの作成
- 5 社会資源の開発

問題 136 この発言を受けて、ワーカーが行うTさんへの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Tさんに一般雇用慣れるための訓練を行う。
- B Tさんが職場体験できるように機会を設ける。
- C Tさんとともに、Y食品会社の人から仕事内容の説明を受ける。
- D Tさんに対して責任ある立場になるように励ます。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 137 この場面におけるワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 人事担当者に職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援を提案する。
- B Y食品会社を訪問し、上司とともにTさんへの支援策を協議する。
- C Tさんが元の作業所での仕事に復帰できるように手配する。
- D Tさんの自覚を促すため無断欠勤について強く叱責する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

(社会福祉援助技術・事例問題 6)

次の事例を読んで、問題 138 から問題 140 までについて答えなさい。

〔事例〕

X 居宅介護支援事業所の社会福祉士の資格を持つ E 介護支援専門員（以下「専門員」という。）は、要介護高齢者やその家族の様々な相談に応じている。ある日、女性 F さん（69 歳）から次のような電話相談があった。

F さん：あの一、夫の介護に疲れてしまって……。介護保険は申請したのですが、どうしていいのかわからなくて……。

専門員：介護にお疲れになったのですね（問題 138）。

……（中略）……

専門員は、F さんの話の内容から、次のような状況であることが分かった。脳梗塞^{こうそく}で入院していた F さんの夫（70 歳）は、病状が安定し退院して在宅生活を送っていた。

F さんは、夫との二人暮らしで、子どもはいるが、同居はせず遠方で暮らしているとのことであった。介護保険を申請し、要介護 2 の状態であったが、F さんが全面的に介護したいとの意向であったため、介護保険によるサービスを利用せずにこれまでやってきたという。しかし、F さんも既に高齢であり、夫の介護を一人でやっていく自信がなくなったが、介護保険によるサービスを活用しながら、在宅で夫の介護を継続していきたいとも考えている。また、専門員は、F さんや F さんの夫についての話から、支援の緊急性が現時点で高くないことを確認した（問題 139）。

……（中略）……

そして、F さんとの電話の最後の場面となった。

F さん：ありがとうございました。なんとなくほっといたしました。来週金曜日の午後 2 時ごろが都合がよいのですが……。

専門員：では、来週金曜日の午後 2 時に、F さんのご自宅にお伺いさせていただきます。

最後に、何かお話しなさいたいことはございますか。

F さん：いいえ、ありません。本当にありがとうございました（問題 140）。

問題 138 この場面で行った専門員の面接技法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 主訴の確認
- 2 事実の確認
- 3 感情の反映
- 4 事実の要約
- 5 状況の理解

問題 139 この時点で考えられる専門員が行う対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Fさんの夫の施設入所を勧める。
- B 今後、専門員が支援していくことについて確認する。
- C これまでの電話面接の内容を要約する。
- D Fさんの在宅介護の継続意思を確認する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 140 次回の訪問面接で専門員が行うことに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A アセスメント
- B Fさんの夫の主訴の確認
- C モニタリング
- D Fさんの夫への専門員についての説明と支援を行うことへの同意

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

介護概論

問題 141 片麻痺者の介護法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 歩行介助は、利用者の患側前方に位置すると安全を守りやすい。
- 2 右片麻痺者が前開き上着を着用する場合、右腕を保護しながら先に左腕を袖に通す。
- 3 右片麻痺者がベッド上で臥床して食事を^がする場合、利用者の左側から介助する。
- 4 左片麻痺者が車いすに移乗する場合、利用者の左側に車いすを置く。
- 5 麻痺がある利用者の入浴介助では、本人の負担をなくし介助者が洗う。

問題 142 認知症に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 脳血管性認知症の特徴として「まだら痴呆」がある。
- B 見当識障害の概念には徘徊や不潔^{はいがい}行為が含まれる。
- C 記銘障害により、食事が済んですぐに「食事はまだか」と聞くことがある。
- D 介護の基本は、日常生活行動を個々の状態に合わせて、尊厳が保たれるよう援助することである。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 143 居住環境に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 冬の期間は居室の温度を保つために、午前、午後の2回程度の換気が望ましい。
- 2 居室の湿度は50～60%が望ましい。
- 3 視覚に障害がある高齢者には光が刺激になるので、できるだけ照度を下げることが望ましい。
- 4 高齢者の住宅では室内温度と外気温との差を10℃以内にすることが望ましい。
- 5 高齢者の住宅の居室・ドアなどの色彩は落ち着いた同系色で統一するのが望ましい。

問題 144 次の語句の組み合わせのうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 人工透析-----腎臓機能障害--難聴
- 2 ペースメーカー-----心臓機能障害--不整脈
- 3 オーディオメーター-----視覚障害-----視野狭窄
- 4 パルスオキシメーター--呼吸機能障害--顔面紅潮
- 5 消化管ストマ-----膀胱機能障害--頻尿

問題 145 障害者の支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 込み合ったバスや電車で難聴者の支援をする場合、大きな声で頻回に声を掛け安全を守る。
- B 視覚障害者の食事場面ではクロックポジションを用いるのが有効である。
- C 心臓機能障害者にチアノーゼの症状が出た場合、発熱の前兆なので検温する。
- D 腎臓機能障害者に減塩食の指示が出ている場合、調味料を工夫して味付けをする。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 146 居宅における介護計画に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 訪問介護計画は、居宅サービス計画が作成されている場合には、その後に作成する。
- B 居宅サービス計画と訪問介護計画の役割は異なるが、その方向性は同じである。
- C 訪問介護計画は、利用者の日常生活全般の状況及び希望を踏まえて作成しなければならない。
- D 訪問介護計画は、介護を受ける本人や家族の意向を基に介護支援専門員が立案するように義務づけられている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 147 福祉用具に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 「福祉用具法」で定められている福祉用具とは、心身の機能が低下し日常生活を営むのに支障のある老人や心身障害者の日常生活上の便宜を図るための用具及び機能訓練のための用具並びに補装具である。
- 2 障害者自立支援法に規定する補装具の処方及び適合判定は、必要に応じ、身体障害者更生相談所が行う。
- 3 社会福祉士は、介護保険法にいう福祉用具専門相談員として認められている。
- 4 介護保険法では、排泄せつに使用する用具は特定福祉用具として貸与の対象品目となっている。
- 5 介護保険法の居宅介護福祉用具購入費は、厚生労働省令で定めるところにより、市町村が必要と認める場合に限り支給される。

(注) 「福祉用具法」とは、「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」のことである。

問題 148 高齢者や障害者とのコミュニケーションに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 感覚性失語とは言葉の意味は理解できるが、発語が適切にできない状態である。
- B 高齢者は一般的に高音域の声で話した方が聞き取りやすい。
- C 認知症の人との会話では、話し手の世界を壊さないように配慮する。
- D 聴覚障害者に話しかける時は、お互いの顔がよく見えるような状態で話し始める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	×	○	×	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問題 149 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 発赤を発見したときは30分程度除圧をし、発赤が消えない場合は発赤部を軽くマッサージをして緊急に対応する。
- B 側臥位の長期臥床では^{かかと}踵に褥瘡が出来やすい。
- C 車いす座位で足部に浮腫^{しゅ}が出現した場合、足部を膝の高さ^{ひざ}ぐらいに上げて変化を観察する。
- D 車いすで長時間座位をとる場合は20～30分ごとに除圧する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

問題 150 認知症に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 アルツハイマー型認知症の人は、記憶障害の程度にかかわらず過去の生活歴を忘れるが、段取りを決めることはできる。
- 2 認知症の人に情報を伝えるときは、単純な内容にして一つずつ伝える。
- 3 パーソンセンタードケアの理念は、認知症になってもその人らしくいきいきと生活できるように個別のケアをすることである。
- 4 認知症の人は、判断力の低下のために異食や転倒などによる自己の生命の危険を自覚しにくい。
- 5 認知症の人には、説得するよりも本人に納得がいくよう援助する。